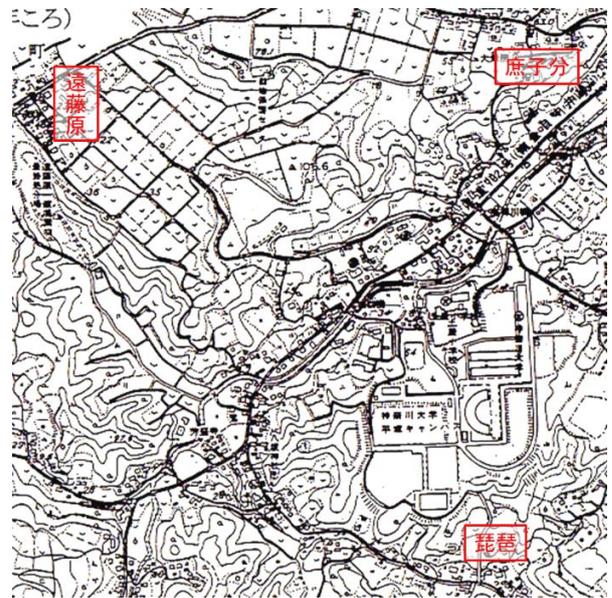


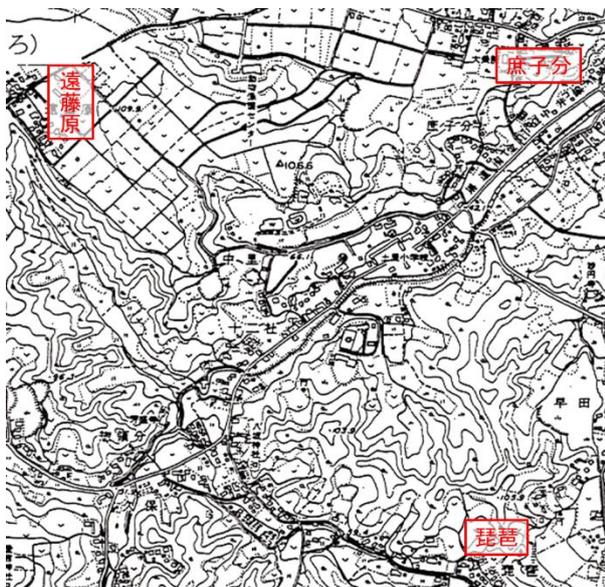
キャンパスの四季 Four Seasons in SHC (締め括り その1) 2017/02/03

<土屋の里> 富士を背景にし、生き物たちに恵まれた湘南ひらつかキャンパス(SHC)で過ごす(してきた)幸せを感じながら、SHC の自然を四季折々に紹介してきました。そのような中でSHCの開設される以前のこの地はどうであったろうかと時には思ったりしたものです。バードウォッチングの聖地であったとか由緒ある土地と聞き及んでいましたが、「キャンパスの四季」の締め括りにあたって幾ばくかの書き物や地図を新ためて調べました。

まず、三つの地図、①平成5年(1993年、SHC 開設から数年のち)、②昭和55年(1980年、SHC 開設まで約10年)、うんと遡って③明治39年(1906年)をご覧ください。地図③の八面(やつおもて)、惣領分(そうりょうぶん:原図では總領分)、琵琶(びわ)を結ぶ三角形の辺りの丘陵地に、周りを残すような形でキャンパスの整備されたことがまず分かります。また、SHC の開設される前までこの丘陵地は谷戸に沿って耕作が行われていたようで、多少の違いはあるものの地図②と③であまり変わっていません。明治初期の地図(掲載せず)でも同様です。今も豊かな自然が残されているゆえんでしょう。土屋橋や遠藤原からのバス道路のおおよその形はすでに地図③、もっと古くは明治初期の地図に見られます。一方、妙円寺(地図②の右端中ほど、地図③では寺院の記号のみ)の前を通る平塚からのバス道路は、明治のころには村人たちの行き来する細い道だったようです。このように地図を眺めているとこの地の昔の姿がいろいろと想像されます。ところでSHCに隣接する土屋小学校は地図③には見られませんが90年以上の歴史を持つ学校です。本学と同じ位の年齢ですね。



地図①：平成5年(1993年)



地図②：昭和55年(1980年)



地図③：明治39年(1906年)